

第 1 回 札幌市 避難場所 基本計画 検討委員会 概要

1 日時

平成 24 年 9 月 3 日（月） 10：00～12：15

2 場所

S T V 北 2 条ビル（札幌市中央区北 2 条西 2 丁目） 6 階第 1～3 号会議室

3 出席委員

天野委員、安藤委員、一瀬委員、鎌田委員、佐々木委員、定池委員、田畑委員、永田委員、中村委員、本田委員、森本委員、矢橋委員（13 名中 12 名出席）

4 主な会議内容

- (1) スケジュール
- (2) 計画策定に係る基礎情報
- (3) 計画策定における重要ポイント
- (4) 収容避難場所のあり方について

5 委員からの主な意見

- ・ 高齢の方と障がいの方は、和式トイレをほとんど使えないのでトイレの関係や、また、北海道の場合は、暖房を含めて考えていく必要がある。
- ・ 災害時要援護者への対応ということで、小中学校の場合には、避難所というどうしても体育館が想定されるわけだが、教室も開放すべきではないかと思っている。そういうことを含めて収容避難場所について検討していかなければならない。
- ・ 学校が避難所として適する理由としてスペースの広さやトイレの数が多いということのほかに、医療的措置を行える保健室や暖房等の空調設備を完備していることとなどハード的なメリットがある。
- ・ 備蓄や避難所整備ということに地域の方により参加していただけるような仕組みも含めてつくすることで災害時の対応だけではなくて、地域づくりにもつながる委員会になることを期待している。
- ・ ハードを活用していく人間の問題が重要なので、「人」（の体制）も含めて収容避難場所指定・分類の要件とするべきではないか。